



雪国の暮らしを支える人

昨年の少雪から一転、突然どかっと降り始めた雪に、嬉しさと、来ちゃったか〜という複雑な気持ちが入り交じる。そんな中、まちの中を走り回る黄色い除雪車は、昨冬に出番が無かった分、なんだか活き活きしているように見える。

私が最上町に移住して感じたことの一つに、除雪レベルの高さがある。山形市に住んでいた時は、少し雪が積もろうものなら、道はガタガタ、駐車場には堆く雪が積まれ、何回スタックしたか分からない。それが、この雪国・最上町に来てからは、家の前の雪かき以外で大変な思いをしたことがない。

勝手に除雪オペレーターの方々に感謝と尊敬の気持ちを抱いていたのだが、念願叶ってお話を聞くことができた。

雪が降り積もる深夜2時。特に呼び出しがあるわけでもなく、自己判断でオペレーターたちが除雪センターに出勤してくる。各自が天候状況や住んでいる集落の積もり方などをみて判断するのだと言う。早朝というには早すぎる時間から、彼らの仕事が始まる。私が話を聞いたのは町の直営除雪オペレーターの尾形健寿さん。この道25年の大ベテランだ。

今でこそコロナ禍で忘年会なども自粛しているが、本来であればお酒の席も多い時期。飲みたい・参加したい気持ちをぐっと抑えて早めに就寝するのだろうかと思像できる。私たちが当たり前に出勤・通学できるのは、彼らの存在があるからに他ならない。

町道126・8kmのうち、80・5kmの道のりを、遅くとも朝7時までの間に除雪しなければならぬ。国道や県道と違って、細やかな対応が必要になる町道の除雪。地域の声を聞きながら、一人暮らしの高齢者の家の前には雪を置かないようにしたり、通学路は念入りに除雪しているそう。管轄の異なる国道・県道の除雪オペレーターとも連携し、こぼれてしまった雪を除雪することもある。

オペレーターの技術が高いのは、先輩後輩の2人1組で除雪車に乗り、すぐ側で技を習得できるからだと言う。そして、ライフラインとして救急車や消防車が通れるようにしなければならぬという使命感もある。口には出さなかったが、きっと近所の方々の顔が浮かんだり、雪国に暮らす誇りのようなものも、除雪のきめ細やかさにつながっているのではないかと感じた。

仕事が一段落する朝7時頃、朝日が登り始め、目の前にキラキラと広がる前森の雪原はとても美しいという。私も、真っ白な雪に覆われる最上町の風景が大好きだ。大変なことも多い雪国の暮らしたが、雪がなければ農業やスキー場の運営、観光などにも影響が出てくる程、最上町にとって雪は無くしてはならない存在。汗だけで雪かきして、また翌日も同じくらい積もっているとがっかりするが、運動不足になりがちな冬の体操と捉えて今年の雪を楽しんでいきたい。

【除雪オペレーターからお願い】

- ・流雪溝のグレーチングを開けっ放しにしない（流雪溝のグレーチングが除雪車によって一発で壊れてしまう）
- ・路上駐車をしない（除雪が円滑に行えなくなる）

- ・除雪車に子どもを近づけない（本当に危険）

2020年12月23日発行

編集・最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

情報提供や山崎とお話したい方はご連絡ください
電話0233-43-2261（最上町役場まちづくり推進室）

メール hayakawamiyage@gmail.com